

T P I 研 究 (I)
— プロフィールの型について —

藤 本 幸 次 郎

Research For TPI (I) : Profile Pattern

Kohjiro FUJIMOTO

This research aimed at classifying profiles of TPI (Todai Personality Inventory) and discovering their characteristic and typical patterns.

The total subjects were 1,198, (male 1,104, female 94, age 17~61, average age 21.9) whom we applied the standard version of TPI by individual and group methods. Drawing each profile of all the subjects, we visually summarized various types of profiles into similar ones in reference with code type.

As the result, we found eight patterns (types), patterns of average, submerged, borderline, high-ranging, sloped, convexed, diphasic, and spikes.

1. はじめに

TPI (Todai Personality Inventory, 東大版総合性格検査)^{1)・2)}は、東京大学医学部の笠松 章教授と教育学部の沢田慶輔教授の指導のもとに、精神医学と教育心理学の専門家が協力して作成した質問紙法の性格検査である。その作成経過³⁾をみるとアメリカのMMPI (Minnesota Multiphasic Personality Inventory, ミネソタ多面人格目録)^{4)・5)・6)}をもとにして標準化している。

TPIの特色は、まず500の項目からなっていて、その項目内容は身体、健康、行動、習慣、意見、態度など多方面にわたっていること、つぎに常用尺度として、検査に対する応答態度を測定する5種類の有効性尺度と特定の臨床的意味づけをもったパーソナリティ特性を測定する9種類の基本尺度、それに付加尺度1種類が用意されていること、さらに9種類の基本尺度によって描かれるプロフィールは個人の微妙なパーソナリティの差異を多面的にとらえることができることである。それゆえTPIの応用範囲はきわめて広く、個人のパーソナリティの総合的把握、精神障害者の発見、特定の個人や集団のパーソナリティ研究などに利用することができる。

筆者は、このTPIを職業相談や雇用相談の臨床場面で使用し、その有効性を検討してきた。その結果、TPIの成績全般を一べつできるプロフィールが、特定の職務に対する適性の予測や職場適応性の診断に役立つと考えるにいたった。

そこで本研究は、TPIプロフィールを活用するときに都合のよいように、全く種々雑多のプロフィールの型を、その類似性や共通する特徴に基づいて、いくつかの類型に分類するために行なった。

この論文では、以前に報告した研究結果⁷⁾を再検討して得たところの典型的なプロフィール類型について報告することにした。

2. 方 法

(1) 被 験 者

職業相談事例男子550名、就職試験応募者357名（男子297名、女子60名）、大学生246名（男子214名、女子32名）、現職者27名（男子25名、女子2名）、受刑者男子18名の合計1,198名（男子1,104名、女子94名）であった。被験者の年齢は17歳から61歳まで、平均年齢は21.9歳であった。なお、職業相談事例群には精神分裂病、躁うつ病、てんかん、非定型精神病、神経症などと診断された精神障害者が157名、職場不適應者64名、情動障害者33名がふくまれていた。

(2) 実施時期・手続き

昭和45年2月から平成元年8月にかけて実施した。実施の手続きはTPIの標準版を個別法と集団法で実施した。検査の教示において、回答するときあまり考えすぎないこと、なるべく「はい」か「いいえ」のどちらかに決めて答えること、無回答数が全体の1割以上にならないようにすることを強調した。

(3) 結果整理の方法

① 無回答数が1割以上あった大学生男子7名を除いた。②被験者個々のプロフィールを描いたあと、そのコード型を参考にしながら、目視によって類型の区分をした。③各類型の特徴をはっきり示すために、それぞれの類型の尺度別平均粗点を算出し、それを標準得点（T得点）に換算して、平均プロフィールを描いた。なお、平均プロフィールは男子プロフィールだけを取りあげて作成した。女子を除いたのは各類型の人員が少なかったことと修正尺度や標準得点換算値が異なっているからである。

3. 結果と考察

プロフィールの型は、その人の複雑なパーソナリティ特徴と個人差を反映しているので、こまかく分類するとほとんど無限といってもいいぐらいの種類がある。しかし、数多くのプロフィールをよく観察していると、そこにいくつかの類似性が認められるものである。このような類似性や共通点に着目して、プロフィールを類型化したところ、以下のとおり8種類の主要類型と6種類の下位類型を見出すことができた。

表1は各プロフィール類型の尺度別平均粗点と範囲である。表中の人員は、各類型の特徴を最もよくあらわしているものを選んでいった結果出てきた数値である。

表1 各プロフィール類型の尺度別平均粗点と範囲

尺 度		有 効 性 尺 度					基 本 尺 度									付 加 尺 度 In	人 員
		A (Nr)	B (Rr)	C (Uf)	D (Li)	E (Cr)	1 (Dp)	2 (Hc)	3 (Hy)	4 (Ob)	5 (Pa)	6 (Hb)	7 (As)	8 (Ep)	9 (Ma)		
平均型	平均粗点	1.93	1.33	5.93	6.20	8.73	12.07	11.60	5.40	21.33	11.00	10.20	12.93	5.60	8.13	14.40	15
	範 囲	6 (0~6)	3 (0~3)	15 (0~15)	9 (2~11)	9 (3~12)	3 (10~13)	5 (9~14)	4 (4~8)	6 (18~24)	4 (9~13)	4 (8~12)	5 (10~15)	5 (4~9)	6 (5~11)	22 (4~26)	
平均沈下型	平均粗点	1.21	1.33	5.33	4.13	7.04	10.13	9.67	3.83	18.29	9.38	8.88	12.04	4.38	8.25	16.54	24
	範 囲	16 (0~16)	5 (0~5)	11 (2~13)	7 (2~9)	8 (3~11)	6 (7~13)	7 (6~13)	5 (2~7)	7 (16~23)	6 (6~12)	7 (6~13)	8 (7~15)	7 (1~8)	12 (4~16)	26 (4~30)	
境界線型	平均粗点	0.44	4.83	13.11	5.39	6.28	14.44	16.11	10.78	27.17	14.89	16.00	16.11	10.17	11.83	22.61	18
	範 囲	3 (0~3)	7 (1~8)	16 (5~21)	8 (2~10)	9 (1~10)	7 (11~18)	8 (11~19)	9 (5~14)	7 (23~30)	7 (11~18)	11 (8~19)	12 (9~21)	9 (6~15)	14 (4~18)	19 (14~33)	
高度得点型	平均粗点	2.49	7.00	15.88	5.35	6.14	15.74	20.37	14.47	29.20	16.86	20.76	17.33	13.61	14.04	24.80	49
	範 囲	15 (0~15)	17 (1~18)	23 (1~24)	13 (2~15)	14 (0~14)	13 (9~22)	21 (9~30)	18 (6~24)	23 (17~40)	19 (8~27)	27 (10~37)	16 (12~28)	22 (3~25)	20 (6~26)	29 (8~37)	
下降型	平均粗点	1.81	2.25	10.56	5.08	8.27	17.35	18.92	10.13	29.27	12.50	13.67	14.88	8.02	7.25	23.08	48
	範 囲	12 (0~12)	7 (0~7)	21 (2~23)	11 (1~12)	8 (4~12)	15 (13~28)	16 (13~29)	16 (3~19)	22 (20~42)	13 (7~20)	15 (6~21)	16 (7~23)	17 (2~19)	17 (0~17)	26 (7~33)	
中高型	平均粗点	2.67	1.80	3.48	8.85	11.00	12.26	13.05	5.97	21.90	15.74	16.55	14.53	3.97	9.03	11.48	58
	範 囲	26 (0~26)	7 (0~7)	18 (0~18)	16 (1~17)	9 (6~15)	9 (7~16)	9 (9~18)	12 (1~13)	17 (15~32)	9 (13~22)	6 (13~19)	9 (10~19)	8 (1~9)	12 (2~14)	31 (1~32)	
二 相 性 型	(A) 平均粗点	2.29	5.46	11.46	5.68	6.18	13.50	16.29	12.32	20.18	14.82	17.57	16.71	10.32	14.18	19.75	28
	(A) 範 囲	15 (0~15)	15 (0~15)	21 (3~24)	11 (0~11)	10 (2~12)	12 (8~20)	19 (9~28)	21 (5~26)	19 (13~32)	13 (10~23)	19 (13~29)	13 (11~24)	17 (3~20)	25 (6~31)	37 (1~38)	
	(B) 平均粗点	2.39	5.07	15.62	3.67	6.00	14.53	17.71	12.90	29.26	10.80	16.90	18.18	12.05	10.74	26.48	
(B) 範 囲	24 (0~24)	13 (0~13)	16 (8~24)	12 (0~12)	13 (1~14)	14 (8~22)	21 (10~31)	19 (5~24)	20 (24~42)	12 (6~18)	20 (8~28)	15 (12~27)	16 (5~21)	16 (4~20)	28 (9~37)		
(C) 平均粗点	1.45	2.75	9.80	3.65	7.75	12.30	13.45	8.25	25.80	11.35	7.80	14.80	8.30	10.25	18.50		
(C) 範 囲	8 (0~8)	6 (0~6)	13 (4~17)	7 (1~8)	10 (2~12)	8 (8~16)	11 (8~19)	9 (5~14)	13 (18~31)	8 (8~16)	5 (5~10)	7 (11~18)	5 (6~11)	11 (5~16)	28 (6~34)		
ス パ イ ク 型	(A) 平均粗点	1.62	1.54	3.54	7.31	9.85	11.62	11.62	5.46	19.69	15.77	10.00	13.15	4.23	9.31	10.85	13
	(A) 範 囲	6 (0~6)	4 (0~4)	9 (0~9)	6 (4~10)	7 (7~14)	5 (9~14)	4 (10~14)	3 (4~7)	8 (16~24)	5 (14~19)	5 (7~12)	5 (10~15)	4 (2~6)	6 (6~12)	20 (1~21)	
	(B) 平均粗点	1.42	3.67	5.92	6.29	9.29	10.46	10.58	5.46	20.17	12.04	11.17	17.58	4.96	16.13	9.58	
(B) 範 囲	10 (0~10)	8 (0~8)	11 (1~12)	11 (2~13)	8 (5~13)	8 (7~15)	7 (8~15)	7 (3~10)	9 (16~25)	8 (8~16)	12 (6~18)	7 (15~22)	8 (1~9)	15 (12~27)	22 (1~23)		
(C) 平均粗点	1.10	1.91	4.14	8.71	11.38	11.33	12.10	5.29	21.14	15.48	11.86	17.43	3.62	13.91	6.29		
(C) 範 囲	6 (0~6)	5 (0~5)	11 (0~11)	13 (2~15)	8 (7~15)	7 (7~14)	8 (8~16)	10 (2~12)	7 (18~25)	7 (13~20)	12 (5~17)	7 (14~21)	8 (0~8)	9 (10~19)	17 (0~17)		

(注1) 男子の成績である。

(注2) 尺度1, 2, 4, 7の平均粗点はB尺度による修正後のものである。

(注3) 範囲の()内数字は最低粗点と最高粗点である。

表1の結果に基づいて各類型の平均プロフィールを描くと、図1から図8のとおりになった。

(1) 平均型 (図1)

プロフィールが、おおむね標準得点45~54の平均範囲にある型である。統計的に平均的な型である。

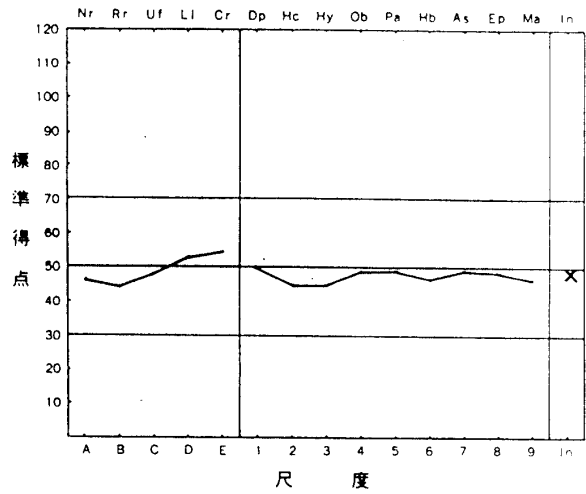


図1 平均型

(2) 平均沈下型 (図2)

ほとんどの尺度が、おおむね標準得点45~30の間に分布する型である。

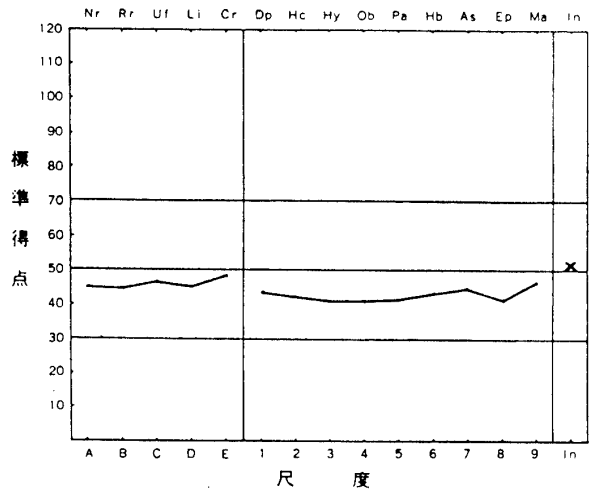


図2 平均沈下型

(3) 境界線型 (図3)

ほとんどの尺度が標準得点55~69の境界線域に分布する型である。いくつかの尺度が標準得点55以下であるものあるいは標準得点70を多少越えるものをふくむ。

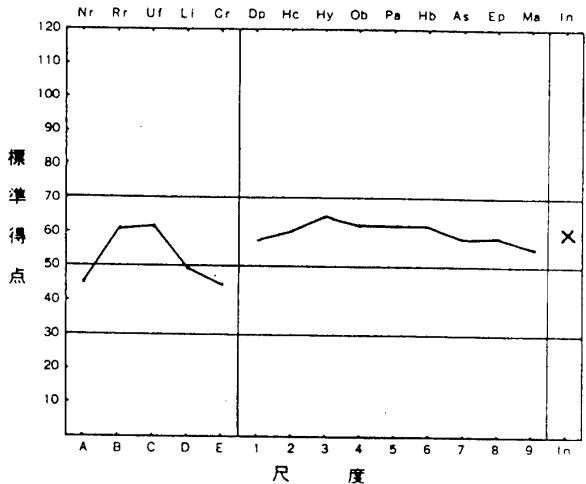


図3 境界線型

(4) 高度得点型 (図4)

ほとんどの尺度が標準得点60以上と高く、そのうちの3つないし5つの尺度が標準得点70を越えている型である。いくつかの尺度が標準得点50近くまで低くなっているものをふくむ。

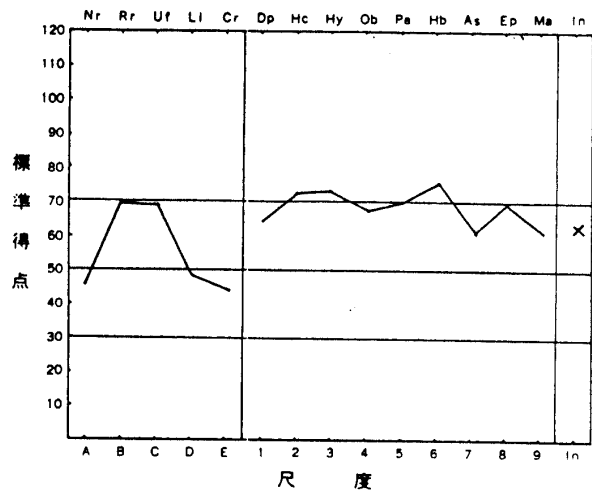


図4 高度得点型

(5) 下降型 (図5)

Dp, Hc, Hy, それにOb尺度が比較的高く、プロフィールは下降線または右下がりの型を描く。有効性尺度のC尺度が比較的高い。また付加尺度Inも高くなる。Dp, Hc, Hyの3つの尺度の得点順位はHc, Dp, Hy(2, 1, 3)とDp, Hc, Hy(1, 2, 3)の組合せがよくみられた。

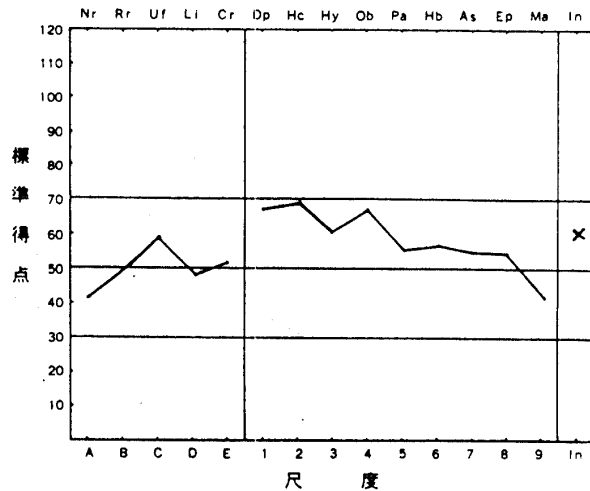


図5 下降型

(6) 中高型 (図6)

PaとHbの尺度が高く、他の尺度は大体同じ水準にあるか、またはPaとHbにともなってObとAsの尺度が他の尺度よりも少し高くなっている型である。PaとHbの得点順位はPa, Hb(5, 6)の組合せになる型が多かった。

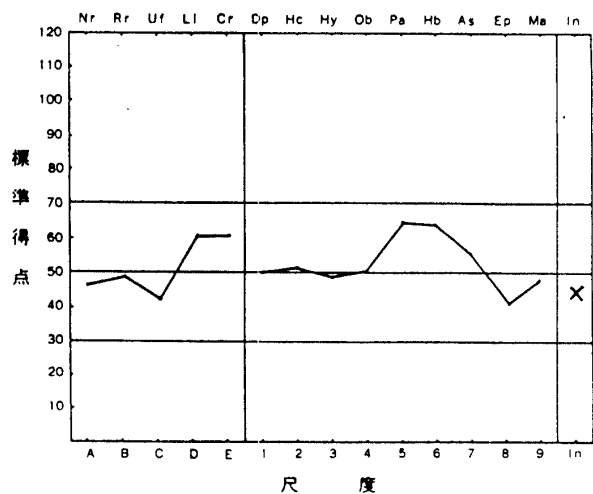


図6 中高型

(7) 二相性型 (図7-(1), (2), (3))

二相性型という語は、MMPI⁶⁾において神経症尺度群と精神病尺度群との中のいくつかの尺度が同じぐらいに高くなる型を示すために用いられている。ここでの二相性型も大体その見解にしたがったが、それほど厳密なものではない。二相性型として3つの下位類型を見出した。

① 二相性型 (A) (図7-(1))

尺度0bを最低(中心)として、左右の尺度群が同じぐらいに高く、それぞれの尺度群はピークをもっている。左側の尺度群はHyが、右側ではHbがピークになる。有効性尺度のRrとUfとが比較的高くなる。この型がMMPIの二相性型に相当するのかもしれない。

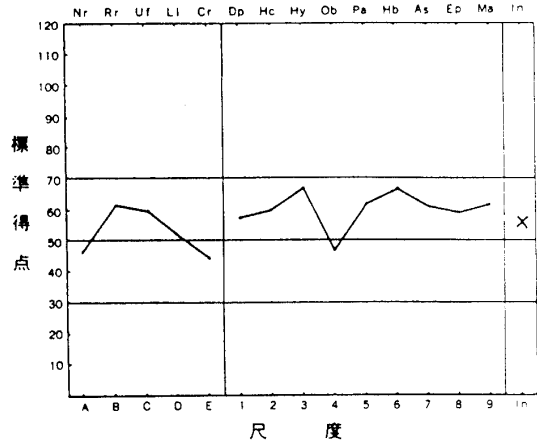


図7-(1) 二相性型 (A)

② 二相性型 (B) (図7-(2))

尺度Paを最低(中心)として、左右の尺度群が高い。左側の尺度群の方が右側の尺度群よりもやや高くなる。左側はHyか0bのどちらかがピークになり、右側ではHb, As, Epのいずれかがピークになる。有効性尺度のUfとRrが比較的高くなる。

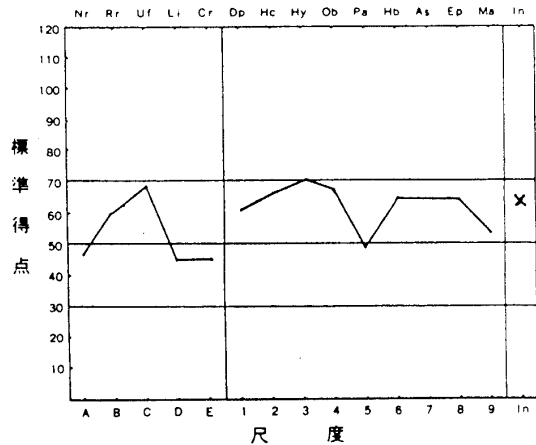


図7-(2) 二相性型 (B)

③ 二相性型 (C) (図7-(3))

尺度Hbを最低(中心)として、左右の尺度群が高い。左側の尺度群は0bをピークとし、右側ではAsがピークとなる。右側の尺度群が左側の尺度群を越えることはない。

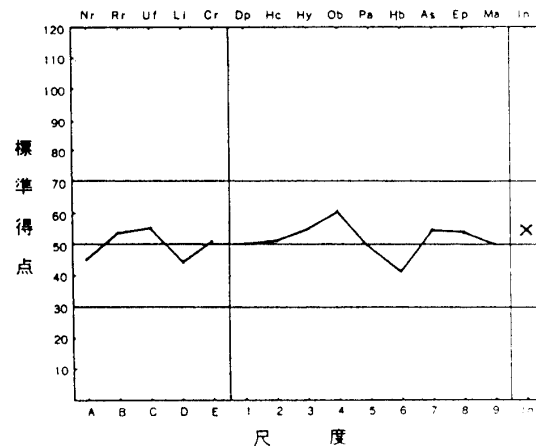


図7-(3) 二相性型 (C)

(8) スパイク型 (図8-(1), (2), (3))

この型は、一般には1つか、2つの尺度が突出して高く、他の尺度はほとんど同じ水準を示すプロフィールである。ここでは3つの尺度が突出したプロフィールもスパイク型とした。

① スパイク型(A) (図8-(1))

単一のスパイク型である。基本尺度には9種類の尺度があるから、9つの単一スパイク型がみられるわけである。図示したPaと、他にDp, Ob, Maのスパイク型が比較的良好にみられた。

② スパイク型(B) (図8-(2))

二つの尺度が著しく高い型である。ダブルのスパイク型とよんでもよいものである。この型としてはPa-Ma, Ob-Asの組合せによるスパイク型が比較的良好にみられた。

図8-(2)のスパイク型(B)は、本当は別の独立した類型として分類した方がよいプロフィールである。適当な名称が浮かばなかったため、あえてスパイク型の中にいれた。

この型はAsとMaが突出して高く、他の尺度は低くて大体同じ水準にある。付加尺度のInが低く、有効性尺度のRrが高いのが特徴である。MMP Iで性格障害型と呼ばれている型に相当するように考えられる。

③ スパイク型(C) (図8-(3))

3つの尺度が突出して高い。トリプルのスパイク型と呼んでもよい。この型も、先の図8-(2)のスパイク型(B)と同様、無理にスパイク型に分類した。

この型はPa, As, Maの3つの尺度が突出して高く、他の尺度は同一水準で低いプロフィールである。3つの尺度の得点順位はPa, Ma, As(5, 9, 7)の組合せが最も多く、

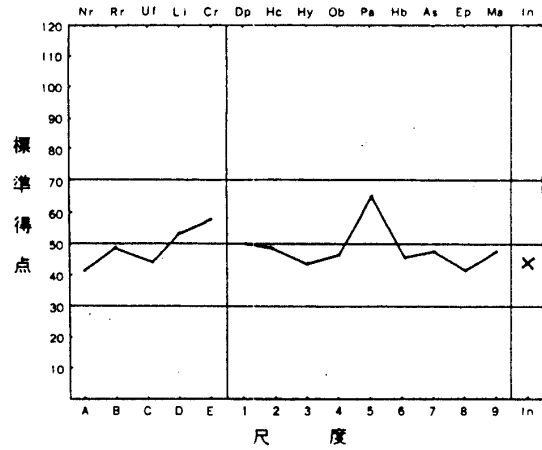


図8-(1) スパイク型(A)

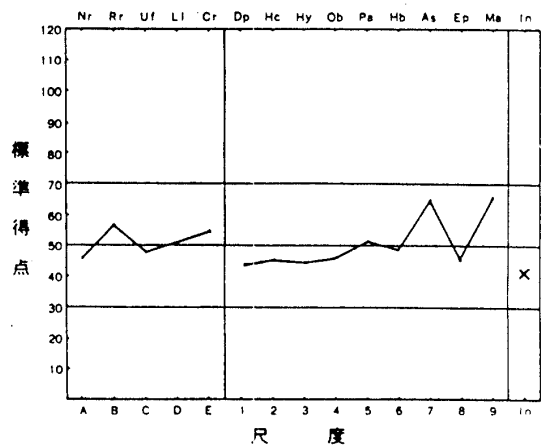


図8-(2) スパイク型(B)

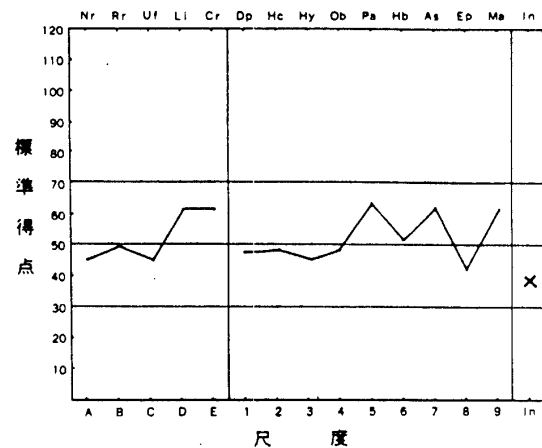


図8-(3) スパイク型(C)

ついでAs, Pa, Ma(7, 5, 9)の組合せであった。

以上が本研究で見出したプロフィール類型である。もっと他の特殊な個人や集団を被験者にして研究すれば、また違った類型が見出されるかもしれない。しかし、TPIの典型的な類型というのは、大体こんなところではないかと考えている。ただ二相性型とスパイク型の両下位類型については、もう少し検討する必要があると思っている。そうすれば別の独立した類型が出てくるかもしれない。また有効性尺度の得点傾向からみた類型化も考えなければならないだろう。

今後は、これらの類型について心理学的意味づけをしていきたい。

4. 要 約

本研究はTPIのプロフィールを分類し、その特徴的、典型的な類型を見出すことを目的として行なった。

被験者1,198名(男子1,104名,女子94名,年齢17歳~61歳,平均21.9歳)に、TPIの標準版を個別法と集団法で実施した。被験者個々のプロフィールを描いたあと、多種多様のプロフィールを、そのコード型を参考にしながら、目視によって類似したものにまとめてみた。

その結果、平均型、平均沈下型、境界線型、高度得点型、下降型、中高型、二相性型およびスパイク型の8種類の類型(典型)を見出した。

参 考 文 献

- 1) 肥田野 直 1967 TPIテストの内容と実施について 学校保健研究, 9巻1号, 2-7.
- 2) 肥田野 直(代表者) 1970 TPI実施手引 TPI研究会
- 3) 肥田野 直, 平田久雄, 長塚和弥, 坪上 宏, 古澤頼雄, 他 1964 東大版総合性格検査(TPI)の作成(その1~その5) 日本心理学会第28回大会発表論文集, 358-362.
- 4) Hathaway, S.R., and Mckinley, J.C. 1951 Minnesota Multiphasic Personality Inventory: Manual. N.Y.: Psychol. Corp..
- 5) 藤本幸次郎 1958 MMPI研究(I) 第3管区総監部適性検査班(部内発表)
- 6) 日本MMPI研究会編(代表者 阿部満洲) 1973 日本版MMPIハンドブック(増補版) 三京書房
- 7) 藤本幸次郎 1977 TPI(東大版総合性格検査)研究(I) — プロフィール型及びコード型について — 日本心理学会第41回大会発表論文集, 1248-1249.